



石井行雄先生をお送りする

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/10720

石井行雄先生をお送りする

佐野比呂己

日本各地には、寺社を中心に古写本、古版本が驚くほど残っている。量的にも、質的にもこれほど多くの典籍を何世紀にもわたって伝えてきた民族はない。ネットオークションで時折、流出することもあるが、多くは大切に保管されており、その文化継承の伝統は実に誇らしく思える。

最近、調査したところでは、大津の園城寺（三井寺）がある。園城寺には、近世天台宗の碩学、大宝守脱が所持していた一群の資料が近年になって整理された。仏教関係の手沢本などのほかに、守脱の仏教天文学研究の草稿類があり、日用類書『事林広記』の室町写本も見つかった。人文科学史研究班でそれらと関連する文献を会読していたので、近隣に眠っていたお宝に驚喜するばかりである。

私のフィールド調査は、自力で掘り出し物を探し出すというより、研究集会で出会った人々から得た耳寄りの情報による。

園城寺の新資料は、整理を担当する石井行雄氏（北海道教育大学准教授）から直接に教えてもらった。訓点学者の

石井氏は、東京育ちで勤務先は釧路であるものにも関わらず、奈良、京都の寺院に神出鬼没であり、人文研の共同研究会にも自費参加されている。

一緒に眺めていると、現物を通してしか学べない蘊蓄ある高説、人とモノとが織りなす物語が拝聴できる。まさしく古写本の価値と違いの分かる方である。

武田時昌先生（京都大学人文科学研究所教授）が、次世代へのメッセージを考える京都新聞のキャンペーン「日本人の忘れもの」知恵会議に「実際に手に取ることで培われる知見と学識」と題した「200元日文化人メッセージ」に石井先生を取り上げている。

小林芳規先生（広島大学名誉教授）の『角筆のみちびく世界』（中公新書 平成元年）の中でも石井先生の名が見られる。

青森県弘前市の弘前市立図書館に蔵される稽古館版『尚書』二冊にも角筆で凹ませた仮名が多量に書き込まれていることを、本書校正中に、弘前市を訪れて知った。（中略）凹み文字があることを石井行雄氏が先ず見つけ、私もこれ

が『尚書』の読み方を書き込んだ訓点の仮名であることを確認した。

日本最北端の角筆文献発見者が石井先生であった。

石井先生のご専門は国語史、国語学史であり、文献学、書誌学にも明るく、古文書の知識も豊富であり、園城寺をはじめとした多くの寺院についての蔵書整理も精力的に行ってきた。

実物に対して強いこだわりがあり、PC等の情報機器には強い拒絶反応を示されていた。それどころか、ご自宅にはTVも電話もお持ちでなく、連絡手段はご自宅玄関ドアの張り紙に頼るしかなかった。ある意味では文明嫌いであったのだろう。

デジタル化した書物の記憶はパソコンの二次元画面でしかない。実際に手に取ることで培われる三次元、四次元の知見、学識の大切さをいつも説かれていた。

石井先生は、権威であるとか、名誉であるとかといったものと距離を置かれていた。教授職を請われながらも断り続け、学識も能力もない浅学の私に教授職を譲り、さらには「助手職を全うしたかった。」と口にするのも常であった。

また、ご自身の名前が世に出ることも好まなかった。先の武田先生の文章に「園城寺には、近世天台宗の碩学、大宝守脱が所持していた一群の資料が近年になって整理された」とあるが、その仕事をしたのも石井先生であった。『大宝守脱関係資料群第一期』（天台寺門宗教文化資料集成教学編纂委員会編 総本山園城寺 平成二十一年）は、「天台寺門宗教文化資料集成

教学編纂委員会」編とはなっているが、実際は、資料の企画、編集、解説は全て石井先生が行ったものである。

石井先生は、日本にある漢籍についても該博な知識を有していた。武田先生をはじめ、多くの中国学者に多くの知見を披瀝し、大きな貢献を果たした。中国学者との共同研究により多くの科研費を獲得し、日本漢学、博士家、易学、骨卜、亀卜、年号勘文、難陳などをテーマに研究推進に大きな役割を果たした。

石井先生は、私にとつて恩師、恩人であり、何か困ったときにはいつも頼りにする存在であった。私が大学教員として職を得ることができたのも、大学院時代の学びにその基盤がある。

春日政治の『西大寺本金光明最勝王經古點の國語學的研究』（勉誠社 昭和四十四年）を輪読し、『日本国語大辞典』をはじめとした大型辞典について、その記述、用例を検証した。そういった地道な作業が現在の自分自身の研究の基盤を支えている。加えて、キャンパス運営、分野運営についても全国的な流れ、将来の予見からの確なアドバイスをいただいた。困ったときは石井先生頼みであった。

また、プライベートでも大変お世話になった。食事をご一緒させていただき、ごちそうまでしていただいたことも度々あった。現在大学四年生である長女の十歳の誕生日、レストランでお祝いの食事をしていただいた。最後に頼んでもいないデザートが運ばれてきた。店主から「カウンターの方からのプレゼントです。」との説明。カウンターには石井先生が笑顔で座っていた。